

○社会教育助成事業補助金について

資料2 平成27年5月25日
第1回社会教育委員会議

1 補助金の現状について

団体名	団体の設置目的	会員数等	H26 対象事業費	H26 補助額	H27 予算額
佐賀市PTA協議会	加盟単位PTAの総意を結集して教育振興に寄与するとともに、社会教育団体として質的向上を図る	14,205世帯 51単位PTA	6,684,172	291,000	291,000
佐賀市私立幼稚園PTA連合会	加盟する幼稚園PTAの提携協力により、私立幼稚園教育の振興をはかり、幼児及び保護者の幸福の増進に寄与する	3,795名 31幼稚園	1,611,622	36,000	36,000
佐賀市地域婦人連絡協議会	婦人の教養を高め、会員相互の親睦を図るとともに、地域社会の発展に努めること	900人 6校区	767,987	713,000	713,000
佐賀市子ども会連絡協議会	子ども会(子ども会等地域少年団体を含む)の指導者ならびに、その育成団体相互連絡提携を図り、子ども会活動の振興発展に寄与する。	26校区 ※三瀬休止中	2,179,715	1,400,000	1,400,000
佐賀市青少年健全育成連合会	各校区・地区の組織との連携と助成を図るとともに総合的対策を樹立して青少年の健全育成に寄与する。	26校区 総動員数 12,806人	1,844,013	1,614,000	1,614,000
佐野常民顕彰会	佐野常民の偉大なる偉業を顕彰し、崇高な博愛精神を甦らせ、その普及と高揚を図ることを目的とする。	一般会員4,226戸 賛助会員 63人	2,983,705	186,000	186,000
佐賀子ども劇場	優れた芸術を鑑賞し、子どもの文化の創造、発展に努力する。それを通じて友情と自主性、創造性を育み健全な成長を図る。	月平均 358人	6,643,978	129,000	129,000
佐賀市スカウト運動推進連絡会議	佐賀市内におけるボーイスカウト団及びガールスカウト団の相互連携を密にし、スカウト運動の振興、青少年の健全育成を図る。	4団体 104名	163,979	89,000	89,000
補助額計				4,458,000	4,458,000

2 前回までの社会教育委員の会議での意見

- ・ 団体補助にするのか、事業補助にするのか(団体補助でなく、事業補助という形で出す考え方ができないのか)
- ・ 団体の選考基準はあるか
- ・ 各団体への補助金額は妥当か
- ・ 積算根拠を明確にすべきではないか
- ・ 補助を行うにあたって、市から事業や施策の方向性を要請してもいいのではないか

3 各団体に対するヒアリングの状況

平成26年度の補助金の確定の書類送付に際し、各団体に聞き取りを行った。

団体名	ヒアリングの実施日	補助金を削減した場合の 団体存続の可否	他の補助金の有無	備考
佐賀市PTA協議会	未実施	-	無	新体制が固まり次第実施
佐賀市私立幼稚園PTA連合会	未実施	-	有	事務局変更のため、時期をみて実施
佐賀市地域婦人連絡協議会	4月13日	×	無	削減されると存続は厳しい。
佐賀市子ども会連絡協議会	4月22日	△	有	削減の程度によっては、存続は厳しい。
佐賀市青少年健全育成連合会	4月14日	△	有	削減の程度によっては、存続は厳しい。
佐野常民顕彰会	4月21日	△	有	可ではあるが、事業規模の縮小は避けられない。
佐賀子ども劇場	4月10日	△	有	一定程度の会費収入は確保できる。
佐賀市スカウト運動推進連絡会議	未実施	-	有	事務局変更のため、時期をみて実施

《その他》

- ・会員数の減少につながるため会費を上げることが難しく、会の維持が難しくなっている。
- ・上位団体への負担金が団体の会計を圧迫している。
- ・連携する校区の自治会の規模や理解の度合いにより、下部組織の活動に差が生じている。

4 ヒアリングから見えてきた課題と論点

(1) 課題

- 時代の流れと共に、会員数や地域のかかわり方など団体の構成等が変化し、それに伴い団体活動の意義が希薄化
⇒団体に対する補助の正当性が不明瞭
- 補助の打ち切りにより、存続が危ぶまれる団体や事業規模の縮小を余儀なくされる団体が存在
⇒地域づくりを含めた社会教育の振興に尽力してきた団体、行政施策の説明や行政課題の解決を担う団体が消滅してしまうおそれ
- 団体の下部組織で、地域毎での活動状況に差がある。

(2) 論点

- 各団体は、社会教育団体としてふさわしいか。また、その役割を担っているのか。
- 各団体への支援は必要か。必要である場合、行政はどのように支援していくのがよいか。
- 各団体に対して、補助することは妥当か。